かしこく　やさしく　たくましく　瞳いきいき　陣屋小学校

～ 地域や保護者と共にある コミュニティ・スクール陣屋 ～

陣屋小だより



〈運動会　5･6年生による人文字〉

令和８年１１月

子供を真ん中において　～成長を共に支える～

校長　淺田　敦子

ご声援ありがとうございました

保護者の皆様には、先日の運動会で、子供たちに大きな拍手とご声援をいただき、誠にありがとうございました。延期日も悪天候の影響が心配される状況が続きましたが、皆様のご理解とご協力のおかげで、子供たちは演技や競技に精いっぱい取り組むことができました。心より感謝申し上げます。

さて、「運動会」と言えば、これまでは徒競走、団体演技、団体競技、リレーがあり、お昼は家族でお弁当を食べるといったことが、コロナ禍前までは多くの学校で当たり前のように行われてきました。しかし、コロナ禍を機に、また学校行事の見直しもあり、運動会への取り組み方も各学校で変わってきています。

陣屋小学校では、プログラムを見直すとともに、練習の取り組み方も変えてきました。今年度も、低・中学年では、団体演技の一部に子供たちが考えた振り付けを取り入れました。また、高学年では、代表者が考えたダンスをみんなで踊りました。練習の始めには、子供たちの代表がその日の練習内容を確認し、練習の終わりには、代表者が振り返りを発表することも行われていました。先生に言われたとおりに行うだけでなく、子供たちの思いや考えを大切にする「子供を真ん中においた運動会」へと変化しつつあります。





みんなで確かめ合いながら練習を進めました

運動会は、どんな子供たちを育てていきたいかという学校の教育目標を具現化するものであり、この競技をやらなくてはいけないというきまりはありません。だからこそ、「子どもを真ん中において」、取り組む種目や進め方の工夫を子供たちとともに楽しみながら、考えていきたいと思っています。

共に支えること

朝のコンサートや運動会の後に、保護者の方から「子供たちの成長した姿が素晴らしく、先生方に感謝したい」という言葉をいただくことがあります。また、PTA の代表の方と行事等について相談したとき、学校の悩みをお話すると「学校の考えに協力します」という声をいただくこともあります。誠にありがとうございます。

一方、以前からお伝えしていることでもありますが、学校現場ではここ数年間「働き方改革」の取組の一つとして、教育課程の見直しを行ってきました。また、今後は、新しい学習指導要領に向けた準備の時期にもなり、教育課程の見直しは一層進んでいくことになります。

様々なご意見の中に「以前行っていた行事や取組を復活させてほしい」という声をいただくことがあります。期待をいただくことは嬉しいのですが、教育課程を見直す中で、これまで行事の準備に時間をかけすぎた結果、教職員にも子供たちにもゆとりがなくなっていることが課題として挙がりました。子供たちのためにと考えていることが、かえってゆとりを奪ってしまうのでは本末転倒です。

教職員が心身のゆとりを保ち、子供一人一人と向き合う時間を確保することは「働き方改革」の大切な目的です。今後も、子供たちにとって教育活動が学びや成長の機会となるよう、その意義や教育課程全体とのバランスを改めて見つめ、「子供を真ん中において」内容や進め方を工夫してまいります。ご理解のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

また、先日「学校・教育委員会への相談に関するお願い」について、新座市教育委員会から各家庭に資料が配付されました。この資料の配付も、「働き方改革」についても、今後も共に子供たちの成長を支えていただくため、保護者、地域の皆様へ学校の現状をご理解いただき、ご協力をお願いするものです。学校・家庭・地域が一つとなって、未来を担う陣屋っ子の成長を支えていけたらと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

ホームページで教育活動の様子を紹介しています。下記よりぜひアクセスをお願いします。

ホーム - 新座市立陣屋小学校